

# 床の施工業者様

**PERGO**  
ベルゴLVTフロア

## フローリング施工マニュアル

※施工前に必ずお読みください！

温度基準と施工方法・・・p.2

施工時の重要注意事項

クリアランス基準・・・p.3～p.4

室温ごとのクリアランス基準

各部材の寸法・・・p.5

必要工具の準備・・・p.6

フロアの施工手順・・・p.6～8

専用部材（見切りなど）の設置方法・・・p.9～p.10

特殊な箇所の納まり例・・・p.11

お役立ち動画や各種資料

リンク・・・p.12

お役立ち動画や各種資料

<室温>18℃以上



置き敷き

接着剤を使わずに施工が可能です。  
(※全面接着でも可)



置き敷きで施工する際は、室温を  
18℃以上に設定してください。



ペルゴLVTフロアの  
表面温度が室温になじんでから  
貼り始めてください。

<室温>18℃未満



全面接着

市販の塩ビ系床材用の接着材を使用し、  
全面接着してください。



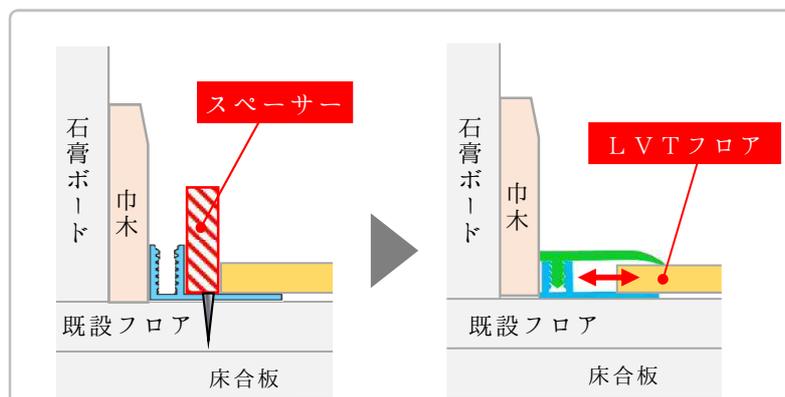
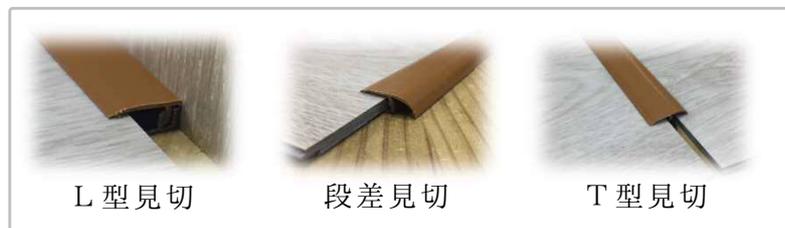
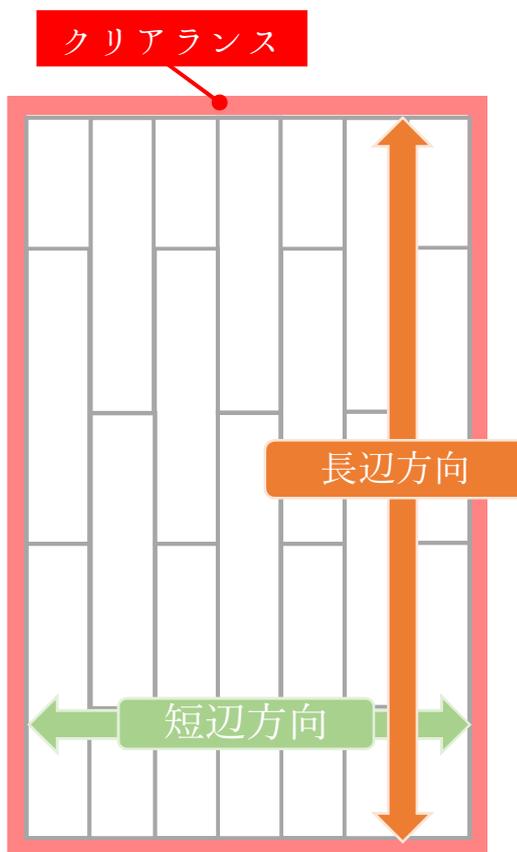
【推奨接着剤】



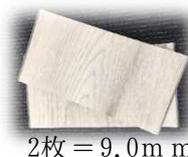
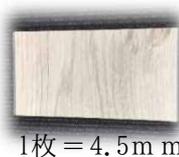
【推奨接着剤】  
トーヨーポリマー(株)製  
『ルビロンエコプラス』など

# 【重要】専用見切材を使用する場合のクリアランス基準

※置き敷きの場合、『突きつけ施工』は禁止です。  
伸縮を飲み込む為の『クリアランス（隙間）』を設けてください。



※スペーサーにはフロアの端材を利用できます。



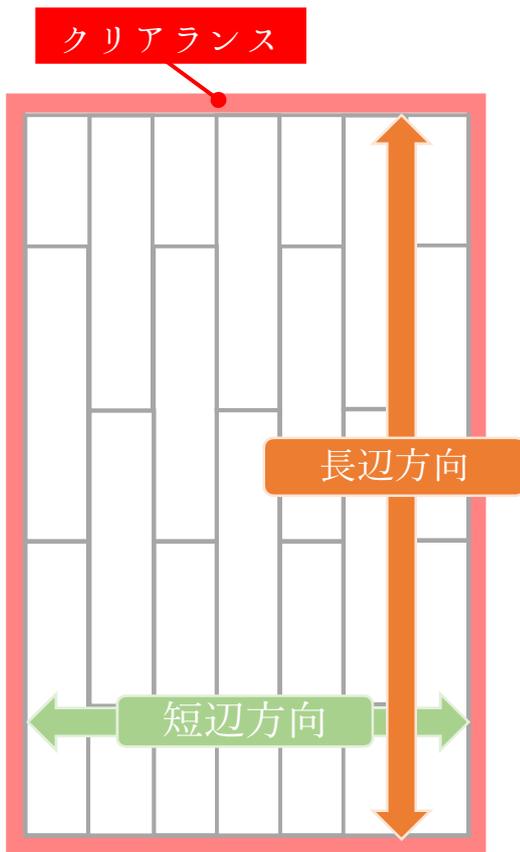
	5M 未満		5M 以上 10M 以下	
	室温	クリアランス	室温	クリアランス
短辺方向	40℃	4.5mm	40℃	4.5mm
	38℃		38℃	
	36℃		36℃	
	34℃		34℃	
	32℃		32℃	
	30℃		30℃	
	28℃		28℃	9.0mm
	26℃		26℃	
	24℃		24℃	
	22℃		22℃	
	20℃		20℃	
	18℃		18℃	

	10M 未満	
	室温	クリアランス
長辺方向	40℃	4.5mm
	38℃	
	36℃	
	34℃	
	32℃	
	30℃	
	28℃	
	26℃	
	24℃	
	22℃	
	20℃	
	18℃	

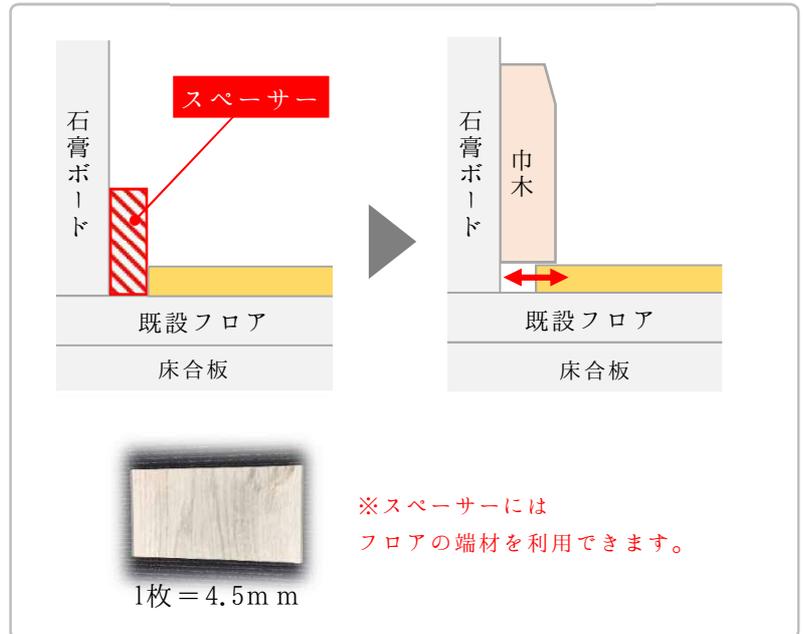
18℃ 以下で施工する場合は、全面接着で施工してください。

# 【重要】巾木を使用する場合のクリアランス基準

※置き敷きの場合、『突きつけ施工』は禁止です。  
伸縮を飲み込む為の『クリアランス（隙間）』を設けてください。



※厚み7mm以上の巾木を使用してください。



※スパンが5M以上となる場合は、T型見切などを使用し、必ず縁を切ってください。

	5M未満	
	室温	クリアランス
短辺方向	40°C	4.5m m
	38°C	
	36°C	
	34°C	
	32°C	
	30°C	
	28°C	
	26°C	
	24°C	
	22°C	
	20°C	
	18°C	

	5M未満	
	室温	クリアランス
長辺方向	40°C	4.5m m
	38°C	
	36°C	
	34°C	
	32°C	
	30°C	
	28°C	
	26°C	
	24°C	
	22°C	
	20°C	
	18°C	

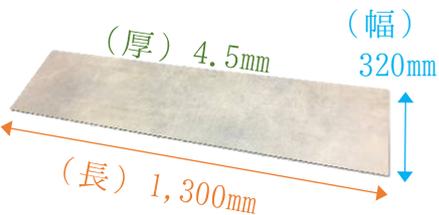
18°C以下で施工する場合は、全面接着で施工してください。

# 各部材の寸法

## ▼フロア本体



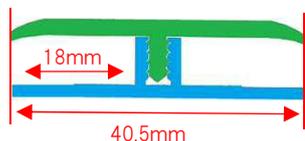
- 重量 (1 ケース) 16.8k g
- 面積 (1 ケース) 2.105m<sup>2</sup>



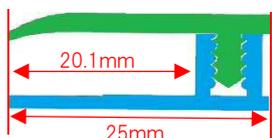
- 重量 (1 ケース) 16.7k g
- 面積 (1 ケース) 2.08m<sup>2</sup>



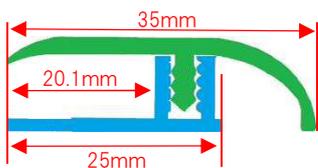
## ▼樹脂製見切



ドア下などで縁を切る際に使用します。



突きつけ部分や壁面にクリアランスを設ける際に使用します。



リフォームなどで既設フロアとの段差を解消する際に使用します。

## ▼不陸調整シート

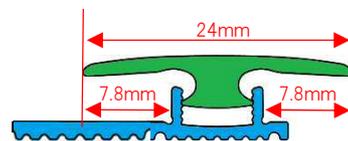


(幅) 1.2m (長) 12.5m (厚) 1mm

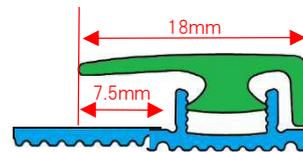
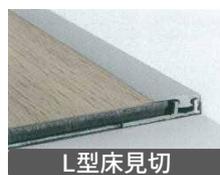
※通常は使用いたしません。  
下地の条件が以下に該当する場合のみ  
ご使用ください。

「1Mに対し2mm以上」かつ「200mmに対し1mm以上」  
の凹凸が生じている。

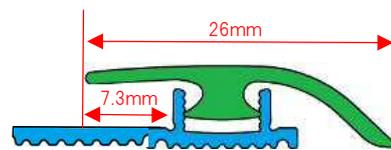
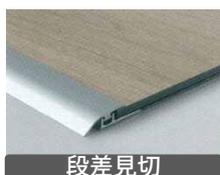
## ▼アルミ見切



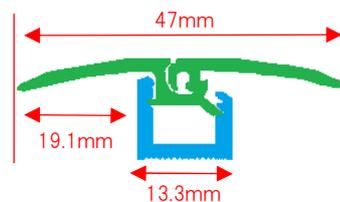
ドア下などで縁を切る際に使用します。



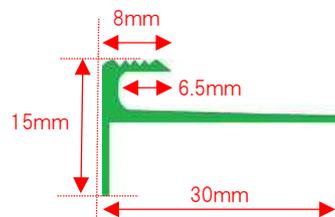
突きつけ部分や壁面にクリアランスを設ける際に使用します。



既設フロアとの段差を解消する際に使用します。



既設フロアとの段差を解消する際に使用します。



階段の段鼻に使用します。

# 必要工具の準備

## ▼工具等



- ① スケール
- ② 専用カッター（別売）  
（ネジロック式の市販品でも可）
- ③ プライヤー
- ④ 差し金
- ⑤ 専用T型定規（別売）
- ⑥ フローリングハンマー
- ⑦ ジュラコンローラー
- ⑧ ほうき
- ⑨ 剪定ハサミ

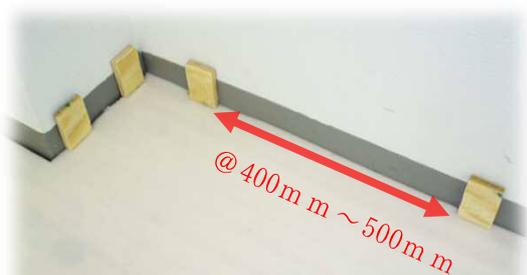
## フロアの施工手順【1】

まずは付属の温度計カードで室温が適正か確認してください。



材料の温度が室温に馴染んでいることをご確認ください。

クリアランスを確保する為、スペーサーを設置します。



設置間隔は400mm ~ 500mmです。

※フロアの端材を利用



1枚 = 4.5mm



2枚 = 9.0mm

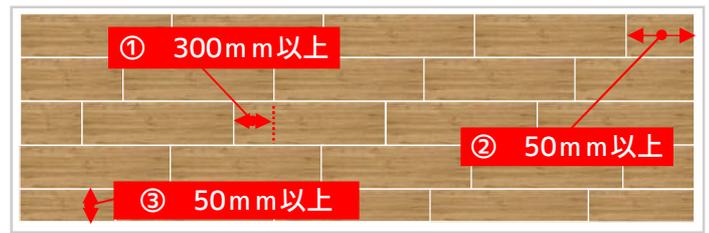
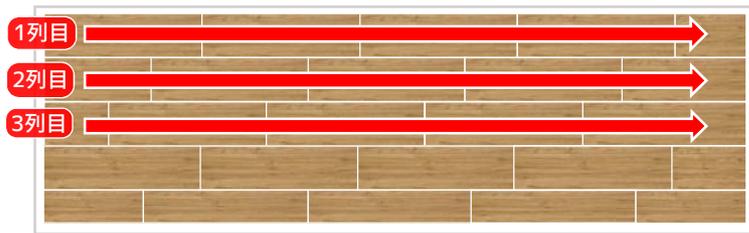
(※クリアランス基準は p.3 ~ p.4 を参照のこと)

部屋貼り始めの列は、雄サネをカットします。



# フロアの施工手順【2】

部屋の左端から貼り始めてください。（※逆貼りも可能です。）



フロアの切断は以下の要領で行います。



フロアの設置は以下の要領で行います。



フロアの状況（サネの外れなど不具合が無い）をチェックしながら施工してください。



サネを同じ向きで挿入しなす。

# フロアの施工手順【3】

1度貼ったフロアの取り外しは、以下の要領で行ってください。

1



②のフロアを1枚だけ外す場合

2



列全体を持ち上げます。

3



一旦引き寄せて

4



プラスチックが付いていない側のフロアを持ち上げる

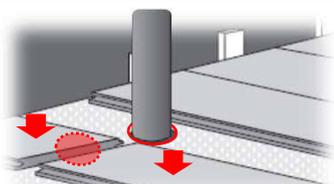
5



フロアを取り外します。

※無理やり1枚だけ外しますとサネの破損の原因になります。

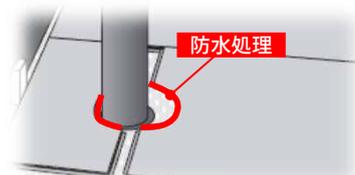
配管周りの処理は以下の要領で施工します。



穴を開けるフロアの位置を確認します。



配管口径よりも大きめに穴を開けます。

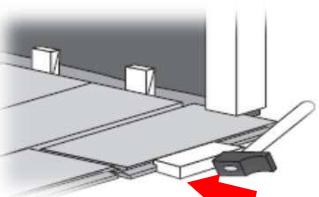


フロアをはめ込んだら、木口に防水処理を施します。

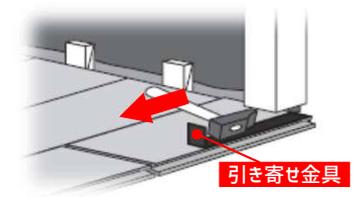
建具枠や柱が先付けされている場合は以下の要領で施工してください。



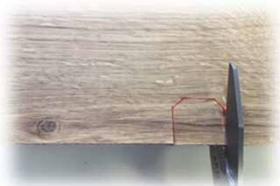
建具枠等を手鋸でカットします。



当て木をして玄能で軽く叩き、長辺のサネを水平にはめ込みます。

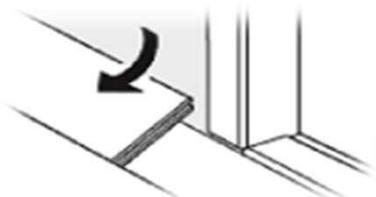


引き寄せ金具を使い、短辺のサネをはめ込みます。



フロアを加工する場合は、剪定ばさみなどで実際のカットラインより少し内側を切り、カッターで微調整しながら加工してください。

最終列（壁際）のフロアは、斜めにカットします。



最終列は斜めにカットすると、壁に当たらず、納めやすくなります。

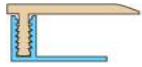
# 専用部材（見切り等）の設置方法 樹脂見切り

見切り材を設置する場合は、以下の要領で行います。

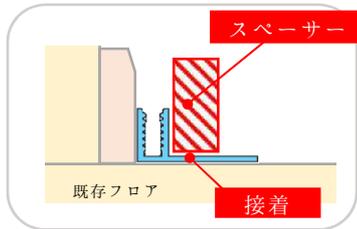
※後述の「スペーサー」にはペルゴLVTフロアの端材をお使いください。



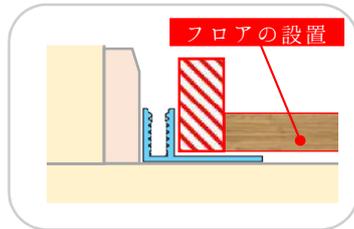
## L型床見切（樹脂製）



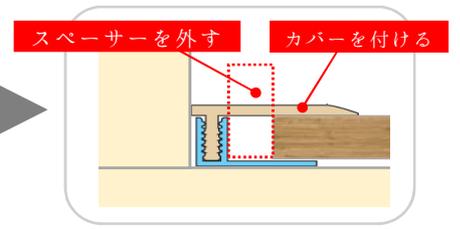
壁際などで見切りを使う際は、**L型床見切**を使用します。



▲見切りの受け材を接着し、スペーサーを設置します。

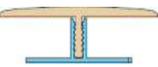


▲フロアを設置します。

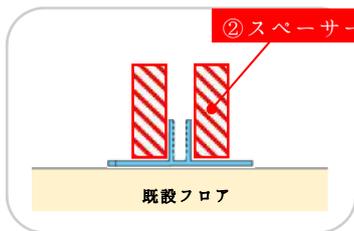


▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

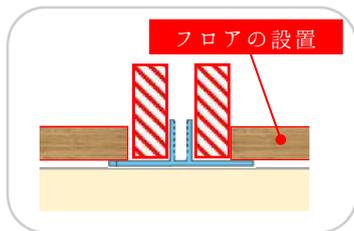
## T型床見切（樹脂製）



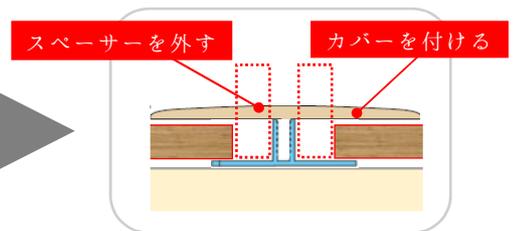
建具の下などで見切りを使う際は、**T型床見切**を使用します。



▲見切りの受け材を接着し、スペーサーを設置します。

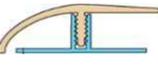


▲フロアを設置します。

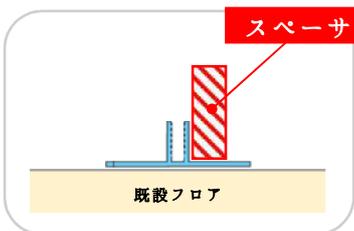


▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

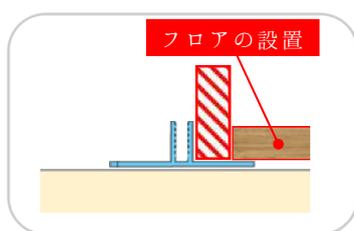
## 段差見切（樹脂製）



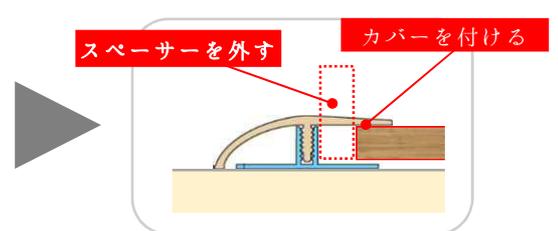
段差が生じた際は、**段差見切**を使用します。



▲見切りの受け材を接着し、スペーサーを設置します。



▲フロアを設置します。

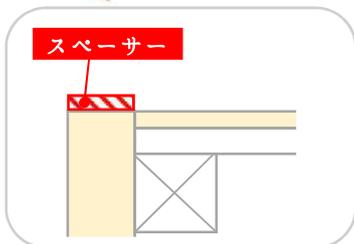


▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

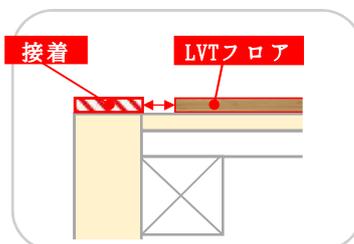
## リフォーム框



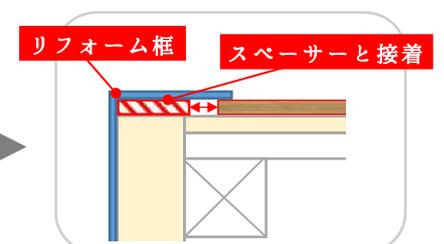
玄関には市販の**リフォーム框**を推奨いたします。  
（※薄めの商品を推奨）



▲角にスペーサーを取り付けます。



▲クリアランスを確保し、LVTフロアを設置します。



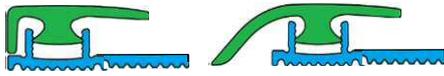
▲クリアランスを確保し、LVTフロアを設置します。

# 専用部材（見切り等）の設置方法 アルミ見切り

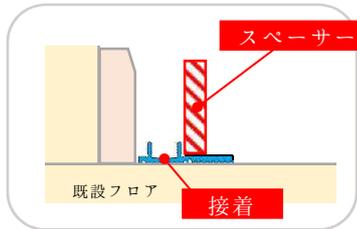
見切り材を設置する場合は、以下の要領で行います。

※「アルミ見切り」は土足などで長期間力がかかる場所に限定し使用します。

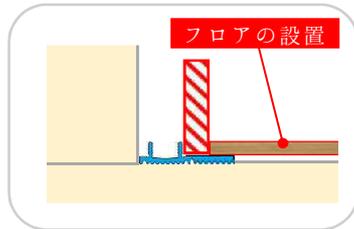
## L型床見切・段差見切り（アルミ製）



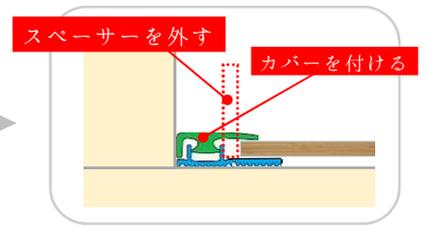
壁際などで見切りを使う際は、**L型床見切**を使用します。



▲見切りの受け材を接着し、  
スペーサーを設置します。

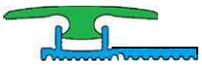


▲フロアを設置します。

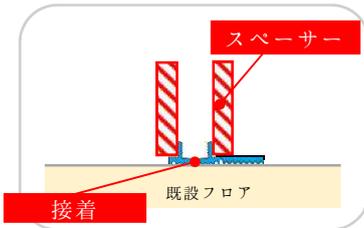


▲スペーサーを外し、  
カバーを付けます。

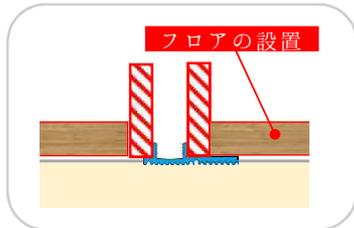
## T型床見切（アルミ製）



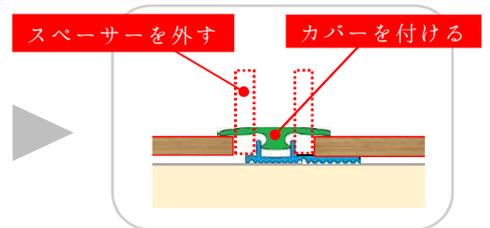
建具の下などで見切りを使う際は、**T型床見切**を使用します。



▲見切りの受け材を接着し、  
スペーサーを設置します。



▲フロアを設置します。

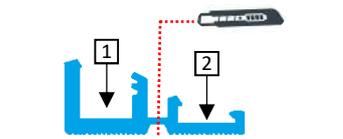


▲スペーサーを外し、  
カバーを付けます。

## コンビモールディング T段差型

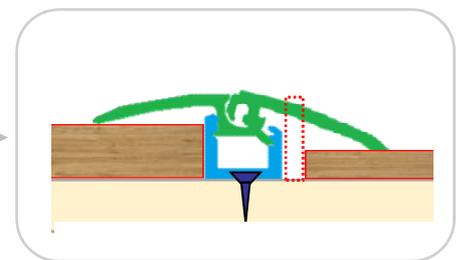
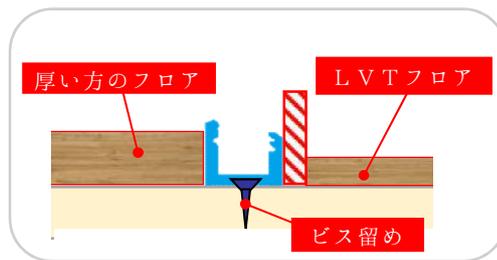


異なる種類のフロア（【例】LVTフロアと合板フロアなど）の仕上げに使用します。



1 段差が5.5m m～12m m

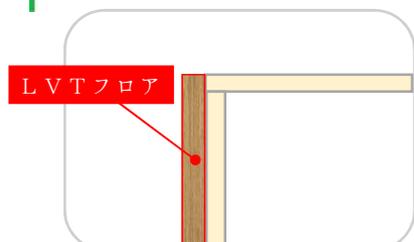
2 段差が5.5m m未満



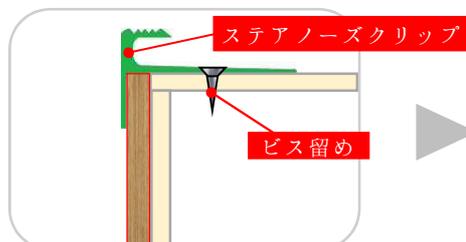
## ステアノーズクリップ 段鼻



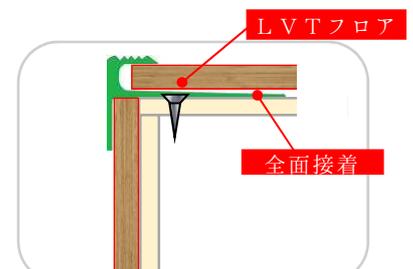
階段の段鼻部分には、**ステアノーズクリップ段鼻**を使用します。



▲蹴込にLVTフロアを取り付けます。



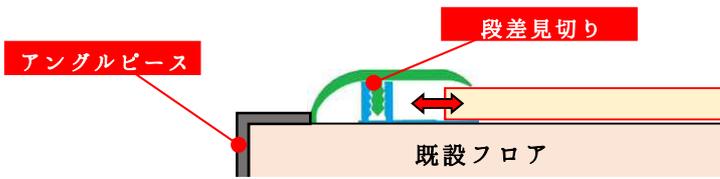
▲ステアノーズクリップを  
ビスで固定します。



▲LVTフロアを段板側に  
取り付けます。（※全面接着）

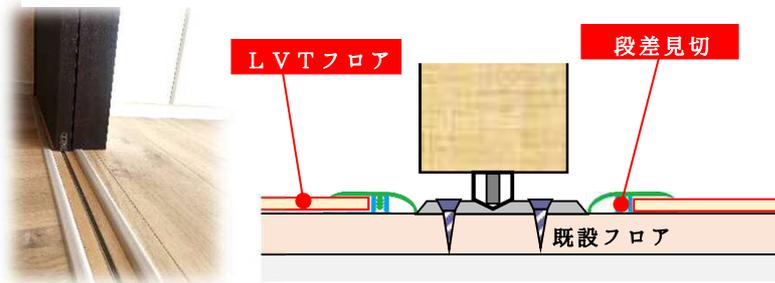
# 特殊な箇所の納まり例

## 掃き出しサッシ



※アングルピースの前に『段差見切』を取り付けます。

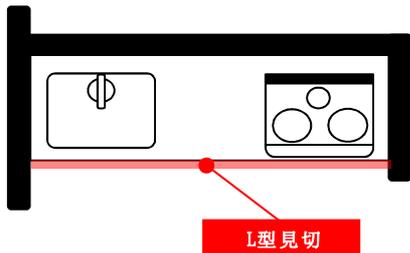
## 引き戸レール付近の納まり



※レールの両側に『段差見切』を使用します。

## キッチン周りの納まり

■あらかじめキッチンがある場合



■まだキッチンが無い場合

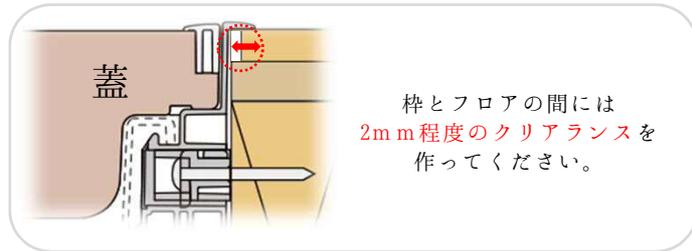


あらかじめLVTフロアを施工し、「下駄」を履かせることで、キッチン下にクリアランスを確保します。

## 床下収納庫



■点検口の蓋は、既存のフロアを剥がし、『4mmベニヤ + 4mmベニヤ + LVTフロア』『2.5mmベニヤ + LVTフロア + LVTフロア』など、厚みを合わせて施工してください。



(※) 蓋に取り付けるフローリング、ベニヤは接着してください  
(※) 点検口の「受け」は、一旦外し、LVT施工後の高さに合わせてください

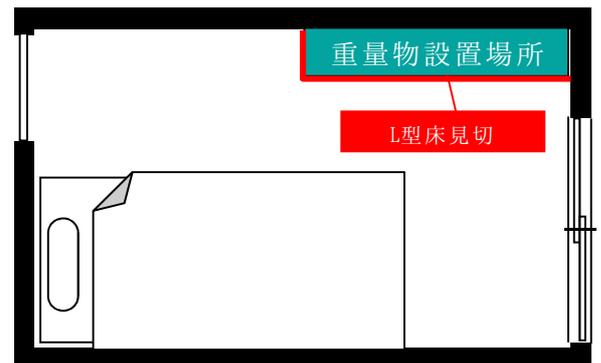
## トイレの床で使用する場合



※床との取り合いに生じる隙間は必ずコーキング（耐水）で処理してください。

## 重量物の設置予定がある場合

※ピアノ、書棚など（※荷重200kg以上）



※重量物の設置区画のみ、縁を切ることで対応してください。

施工に関する動画や、詳細な取扱説明書（禁則、免責事項）は以下のリンクからご覧いただけます。

## ■ 動画集



ペルゴフロア公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCVhpuGqHdOumaAPMBRj3MeQ>

## ■ HOKUSHU Website



施工マニュアル・カタログ・取扱説明書の  
データダウンロード

<https://www.hokushu.net/kenzai/product/1076/>

## 株式会社北洲 市場開発部

【東京営業所】 〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-4 戸浪大森ビル3階  
TEL. 03-6404-6750 FAX. 03-6404-6751

【大阪営業所】 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3丁目11-26 Auroraビル新大阪406号  
TEL. 06-6195-2557 FAX. 06-6195-2558

【札幌営業所】 〒001-0030 北海道札幌市北区北30条西7丁目2-27  
TEL. 011-738-0114 FAX. 011-738-0740

【福岡営業所】 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南3-21-18  
TEL. 092-433-8555 FAX. 092-433-8558